



《晴れた日の港(絶作)》

1989年

本作は、信太郎が人生の最後に描いた絵画のひとつです。色彩豊かな空と海は、どこまでも澄みきって晴れやか。最晩年を迎えてもなお飽きることなく、心から制作を楽しんでいた信太郎の姿が伝わってくるようです。

作品はすべてそごう美術館蔵

カラフルパレット 鈴木信太郎

2026年9月12日(土)~10月12日(月・祝)

そごう美術館 [横浜駅東口 そごう横浜店6階]
郵便番号 220-8510 横浜市西区高島2-18-1
電話 045(465)5515(美術館直通)
<https://sogo-museum.jp/>
X(旧Twitter): @sogomuseum

[デザイン]
tabby design
[編集・発行]
そごう美術館 2026年9月

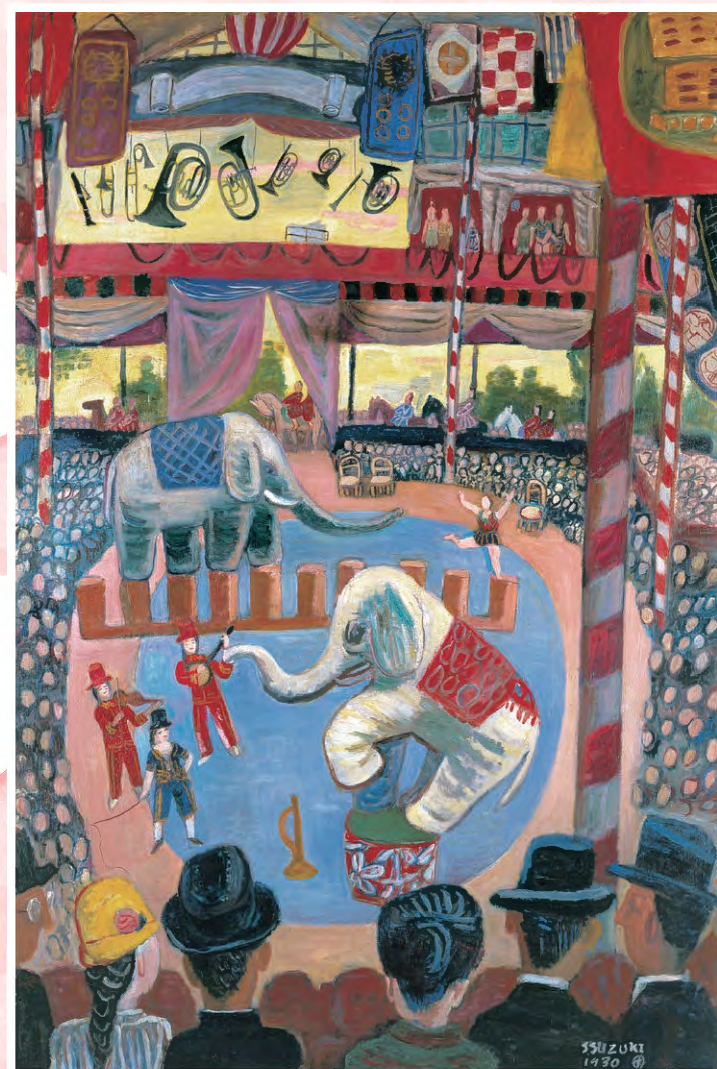
そごう美術館
公式サイト



おすすめ

展覧会の最後に、
《晴れた日の港
(絶作)》を見る
はじめて見た時とは
違った景色が
見えてくるかも!?

そごう美術館
鑑賞ガイド



《象と見物人》

1930年

カラフルパレット

鈴木信太郎

そごう美術館コレクションを中心に



青

《下田港風景》

1971年

おすすめ

作品のなかに、青色を探すと主線から背景まで、なんでもこなせる名パイプレイヤーを見つけてみましょう。

「カラフルパレット 鈴木信太郎」展では、青に大注目！
信太郎の優れた色彩感覚を反映する青色は、作品の魅力をぐっと引き立てます。



晩年には「緑の画家」とも称されるなど、緑は信太郎を代表する色。
信太郎は自由自在に緑を使い分け、美しい自然を描き出しました。

緑

《緑の構図》

1936年

おすすめ

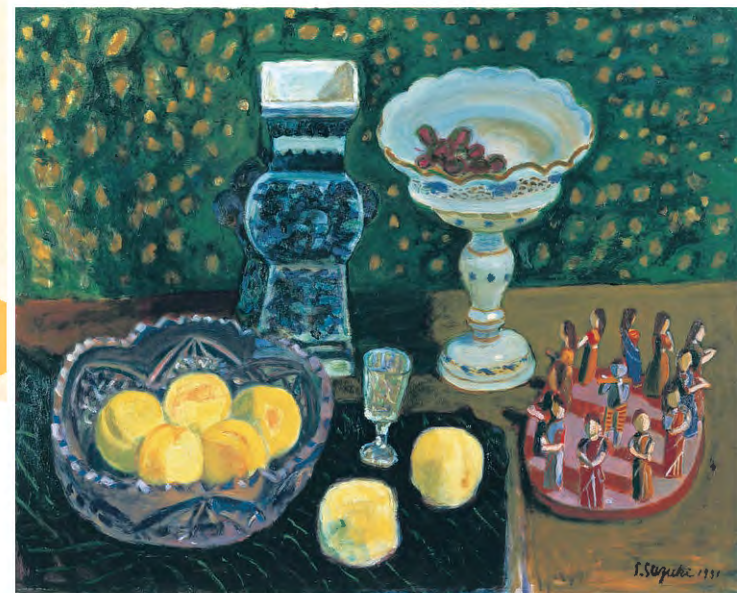
緑同士を比較すると信太郎の緑は千差万別。抜群の色づきは見事です。

黄

《静物(桃)》

1951年

黄色の桃は、信太郎の作品に繰り返し登場しています。



作品のポイントに使われ、見る人の目を引くのが黄色です。
信太郎が生涯愛したモチーフ・桃を描く際にも用いられています。

この色に、注目！

洋画家・鈴木信太郎(1895-1989)は、明るく豊かな色づきを得意とし、「色彩家」(コロリスト)と呼ばれました。色に注目することで、信太郎の作品をよりいっそう楽しめます！

ピンク

《伊豆の春》

1977年

淡くやさしい色も巧みに使いこなした信太郎。原色に近い鮮やかな色と組み合わせて、独自の色彩世界を作り出します。

